

鳴門教育大学 教職大学院に学ぶ

一教員の“教師力”を磨くだけでなく、その力を勤務校の、そして地域の教育を変えていく力にまで高めていくこと。それが鳴門教育大学教職大学院のミッションです。

学び直しを通して得た新たな学びと仲間との出会い

教職大学院への入学のきっかけは、初任者研修拠点校指導員として4名の新規採用教員と一緒に学ぶ中で、自分が経験を通して体得してきた「教職に関する知識と技能」に危うさを感じたからでした。そこで、確かなスキルと指導できる知識を身に付けたいと、学び直しの一歩を踏み出しました。

「共通科目」では、実践の理論的背景について幅広く学びました。静岡県や愛知県など先進研究校への視察の機会



十河

さぬき市立志度小学校勤務

妹先生



にも恵まれ、視野を広げることができました。

「専門科目」では、これまでほとんど知識のなかった「マネジメント」について深く学びました。学校アセスメントや実習に向けての準備等、実践を通してより確かな学びとなりました。

「学校課題フィールドワーク」では、置籍校の先生方とともに、学校改善に取り組みました。学校課題を実習課題と捉えて課題解決に取り組むという教職大学院のねらいを達成するためには、置籍校の先生方の理解と協力が不可欠でした。学校課題を共有し、学校改善に組織として取り組むことができたことに大変感謝しています。

そして、これらの学びを支えてくれたのは、全国から集まっている仲間たちでした。ともに悩み、考え、語り合う中で、さらなる研鑽の必要性に気づくことができました。

この二年間の学びと仲間との出会いは、私にとって一生の財産となりました。今後も学び続ける教師でありたいです。

CASE 4:
**「子どもも教師も
幸せになる『学校づくり』」**

確かな学力を育み、まとまりのある学級をつくる
優れた教師がもつ3つの視座 鳴門教育大学 久我

＜指示・教示⇒習得型＞

① 教えて

② 考えさせて、試行させ

③ 価値づける

＜場の設定⇒自己決定⇒価値付け型＞

（学習）計算、漢字、実験器具の使い方・基礎知識・技術
 （学習・生活）聞き方、話し方、・・・
 （生活）基本的な生活習慣、掃除の仕方、・・・

（学習）課題の自己設定、問題解決
 （学習・生活）子どものアイディア
 （生活）自律的な生活改善、支え合う関係

人として尊敬・踏み込み子どもに対する人権感覚

対人対人として向き合い勇気づける



授業で学んだ理論

ゼミでの議論

教師と子どもの合言葉 **みんなでつくろう！**
やさしいっばい、夢いっぱいの志度小学校
 （思い合う心） （自主性）

「聞き合う」授業
 ・お互いが学び合う授業
 ・「学び合い」の方法の指導
 ・学びづくり
 ・みんなで学ぶ授業

ペア学年活動
 ・なわび等ふれあい活動
 ・音楽集会での発表
 ・なかまづくり
 ・相手のことを思い合う活動

心をつなぐあいさつ
 ・教師と児童が人として向き合う
 ・児童会のあいさつ活動
安心づくり
 ・居心地のよい
 ・学級・学校
 ・学校生活のまじりの
 ・定着

人のことを大切にして「聴くこと」の徹底

かんばる心(自主性)の育成、1の世界
 ・自己有用感の増進(自分の強みを知る)

やさしい心(思い合い)の育成、Weの世界
 ・他者意識の増進(心でつながる)

プランづくり

志度小での実践

学校アセスメント

Research 期		よ さ	課 題
子ども	学 び	<ul style="list-style-type: none"> ●目標があると、がんばる。 ●与えられた課題にまじめに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学びの姿勢が受動的である。 ●思考・判断・応用力が低い。 ●自信がなく、発表に消極的である。
	生 活	<ul style="list-style-type: none"> ●明るく元気で素直である。 ●基本的な生活習慣が身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自己中心の言動が見られる。 ●家庭でのしんどさを抱えている。 ●大人に対する不信感を持っている。

まじめさ素直さ ← 自主性の不足 → 自己有用感の低さ

明るく元気 ← 思いやりの不足 → 他者意識の低さ

学校アセスメント 子どもが抱える教育課題の可視化

全ての協働は、
 ここから始まった！



教 職 員

- ・子どもの主体性を育み、子どもとの関係性を築く指導の必要性
- ・教職員組織の組織化の必要性

保 護 者

- ・学校の教育活動への関心の低さ

全員参加型の学校づくり

Plan 期

重 点 目 標

自主
 思いやり

志度小学校
 夢いっぱい
 やさしいっばい
 みんなでつくろう！

学びづくり
 プロジェクト
 (授業研究)

なかまづくり
 プロジェクト
 (特別活動)

安心づくり
 プロジェクト
 (生徒指導)

3ステップ 共育



プロジェクト委員会

「3ステップ共育」の協働実践により、子どもの自主と思いやりを育み、教師の視座の転換と、教職員組織の組織化を実現する。



重点目標達成のためのプロジェクトの展開



ニュージャージー日本語補習校での授業



ワークショップ型研修



演習「学校をつくる！」

院生との
学び

大学院での学び

Do 期

聴き合う授業

教えて・考えさせて
(個人→友だちと学び合う場)・
勇気づける授業



勇気づけ

「勇気づけボード」、「勇気づけカード」、
学級目標・個人目標に対する勇気づけ

ペア学年活動

3ステップ共育

縄跳び・読み聞かせ等、子どもの
アイデアを生かした異学年活動



心をつなぐあいさつ

教職員と子どもの協働による
あいさつ運動

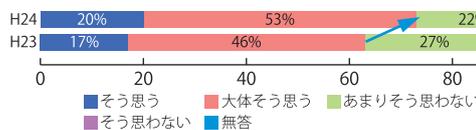


OJTによる人材育成
— 教職員の学び合い —

Check・Action 期

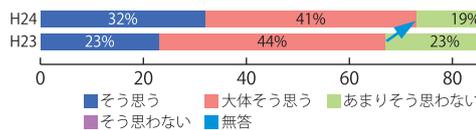
子どもの
変容

10 わたしは、授業に意欲的に取り組んでいる



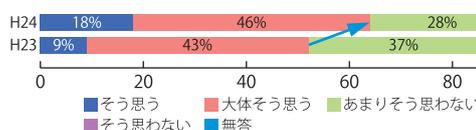
学習意欲の
向上

42 わたしのクラスは、お互いの良い所を認め合うことができる



他者意識の
向上

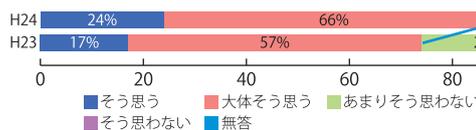
3 わたしは、まわりの人(家族、友だち、先生)から認められている



被受容感の
高まり

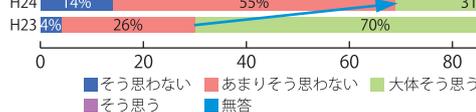
教職員の
変容

6 個人学習やグループ学習の場を意図的に設定する等、指導方法を工夫している



主体性を
育む指導

18 困難な問題が生じた時には、他の教師の力を借りるよりも、
できるだけ自分の力で解決していくようにしている



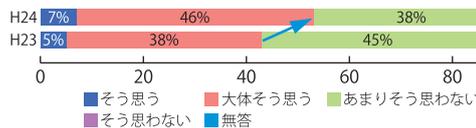
協働性の
高まり

教職員の感想

- ★教職員相互が自校の子どもの課題を共有し、主体的に解決していく中で、教職員の協働意識が高まった。
- ★全教職員で子どもの良い行動を認めたり、ほめたりすることで、子どもと教職員の距離が縮まった。
- ★様々な面から子どもたちを勇気づけることで、たくさんの先生方から見守られていることを子どもたちが実感し始めた。

保護者の
変容

32 学校の教育活動(授業や行事など)の特徴や優れている点を知っている



学校への
信頼の
高まり

「いないと困る！」

そんな頼もしい先生だからこそ鳴教の教職大学院へ

教師力UP

頼れる、頼られる先生は、誰しも高い自己研鑽への意欲を持っているものです。その意欲に応えて、より高い“教師力”を身に付けてもらうことをめざすなら、研究と実践のバランスと融合が特長の教職大学院が最適です。

学校力UP

本学では、ハイレベルな研究者教員と、幅広い現場を知る実務家教員とがチームを組んで指導に当たります。指導教員は学生と共に勤務校を訪ね、1年次には勤務校の学校課題アセスメントを、2年次にはフィールドワークを通じて課題解決をめざします。「貴重な中堅教員がいなくなると困る」という声をよくお聞きしますが、大学院在学中も、勤務校にとって大きなサポートが得られるのです。

地域力UP

教職大学院がめざすのは、中核リーダー教員の育成です。勤務校はもとより、異動した学校、ひいては地域の教育界に資することのできる力が身に付くことでしょう。教育の明日を担える人材の育成には、ぜひ教職大学院をご活用ください。



大学院と連携した学校改善

さぬき市立志度小学校校長 多田 敬三

香川県教委と鳴門教育大学との連携により十河先生を送り出した。現職教員が大学院で学ぶということは、以前は「一流の教師は一流の研究者である」との考えに基づいていたものだ。しかし今はそれとは大きく異なり、十河先生はファシリテーター（推進者）として、本校の課題である学校改善について具体的ビジョンを示してくれている。提案し進めてくれた

ワークショップ型研修を通じ、全教職員が学校改善課題を共通のものとして取り組めるようになった。その共通認識はトップダウンではないボトムアップ型の学校経営へつながっているように思う。また、私自身も久我教授からアドバイスいただける機会もあり、一人職である校長にとっては大変心強くなる。子どもの意識を高めることで、子どもの自主性と教職員の主体性が形作られ、学校全体の意識も高まる。そして保護者や地域との連携が取れることで、大規模校では難しいとされる部分が確実に育っているのを実感している。



『幸せの最大化』に資する実践研究

鳴門教育大学 教授 久我直人

現在、学校教育においては、「負の連鎖」が渦巻き、今後さらに問題の深刻化や複雑化が進むことが懸念されます。

しかし、久我研究室では、「子ども、保護者、教師の『幸せの最大化』に資する教育の展開」を目指し、2つの側面から実践研究に取り組んできました。

その一つが、教職員の組織化です。この組織化の実現のために、子どもの実態や課題を可視化し、共有することで教師の主体的な組織化を促す仕組みを開発してきました（『教師の主体的統合モデル』久我 2011）。

もう一つが「効果のある指導」の組織的展開です。「優れた教師の3つの視座」を援用し、①教えて、②考えさせて、試行させ、③価値づけ、勇気づける教育の展開です（『優れた教師の省察力』久我 2012）。

今回の十河さんの志度小での実践研究は、まさにこの「主体的統合モデル」と「優れた教師の3つの視座」を組み合わせて取り組んだものです。この実践により志度小の子どもの変容（成長）、教職員の組織化、保護者の信頼意識の増加等が確認され、幸せの最大化に一歩近づくことができました。

教職大学院の使命である、院生さんの専門性の向上と学校改善が具現化されたことに喜びを感じています。

◆お問い合わせ

鳴門教育大学 教職大学院コラボレーションオフィス

電話：088-687-6598 ファクシミリ：088-687-6694 E-Mail：collabo@naruto-u.ac.jp

鳴門教育大学ホームページ <http://www.naruto-u.ac.jp/>